

3年3組英語科学習指導案（チャレンジコース）

1 単元 Speaking Plus1 コンサートに行こう

2 目標

- (1) 目標表現を用いて、活動に進んで取り組もうとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 目標表現を用いて伝えたいことを正しく伝えたり、求められた内容について適切に応答することができる。
(表現の能力)
- (3) 相手を誘ったり、提案したりする対話を聞き、その概要がわかる。
(理解の能力)
- (4) 相手を誘ったり、提案したりする場面において、相手や状況にふさわしい表現を理解する。
(言語や文化についての知識・理解)

3 指導にあたって

(1) 教材観

Speaking Plus 1 では、「～ませんか」と人を誘ったり、「～しましょうか」と提案したりする表現、またその応答の表現を学習する。すでに1、2年生で Let's ~, Why don't you~? などの勧誘、提案の表現は学習しているので、日本語と同様に英語にも相手によって丁寧さの度合いが異なる表現があるということ、勧誘や提案は、相手とのコミュニケーションを円滑にすすめるための手段でもあるということを理解させるのに適した単元である。

また Speaking Plus は、ロールプレイを行うことで、英語科の大きな目標である実践的コミュニケーション能力の基礎を養うことができる単元でもある。

(2) 生徒観

3年生では、習熟度別少人数指導を実施している。コースは基礎的な学習や補充的な学習を行うベーシックコース（基本コース）、さらに発展的な学習を行うチャレンジコース（発展コース）である。ガイダンスや確認テストの結果を参考にして生徒自身がコースを選択している。定期テストごとに学習の到達状況や生徒の希望を考慮してコース変更も行っている。

このクラスはチャレンジコースである。授業態度は真面目で、言語活動に意欲的に取り組み、着実に力をつけている。特に単語や基本文の定着度は高く、まとまりのある英文を読んで理解する力、英文を聞いて概要を理解する力に優れている。しかし、「話すこと」では、場面に応じて対応する力、聞いた英語の内容を把握して適切に対応する力が弱い。

(3) 指導観

英語科の目標である実践的コミュニケーション能力の育成を図るためには、「聞くこと・話すこと」に重点をおいた指導をする必要がある。「聞くこと・話すこと」の基礎となるのが基本的な会話を確実に言えるようにすることである。そのために質問する、答えるという一問一答式のQAトレーニングを行いながら、聞いてすぐに適切に答えることができるように練習することが必要である。また、学習したことを実際の場面で運用する力をつけるために「話すこと」を重視したコミュニケーションを行う活動をできるだけ設定するように心がけている。

本単元の学習では、教科書の誘う、誘いを受ける対話だけでなく、Tool Box の誘いを断る表現を取り入れることで、実際の場面や状況に応じて適切に対応することができる力を身につけさせていきたい。

(4) 研究とのかかわり

英語科では表現の能力の向上を目指し、①基礎的・基本的な知識・技能の定着（習得）、②日常生活で実際に起こり得る場面を想定したスピーキング活動（活用）に継続して取り組んでいる。

本単元のスピーキング活動では、言語の使用場面を日常生活に関連づけることでより身近に感じさせ、表現しようという気持ちを喚起するようにした。さらに学習した表現や既習の表現を用いて対応することで言葉を通して伝え合う力、コミュニケーションする力を養うことをねらいとした。

4 指導計画と評価規準（総時数2時間）

次時 (時)	時	ねらい (◎) 学習活動 (・)	評価規準	観 点				活用
				関・意・態	表現の能力	理解の能力	知識・理解	
一 (2)	1	◎ 本文の内容を理解できる。 ◎Would you like to ~? Shall we ~?の形・意味・用法を理解している。 ・対話の内容理解と目標表現を用いた応答練習をする。	・聞いた内容についてその概要をつかむことができる。 ・相手を誘ったり、提案したりする場面において、相手や状況にふさわしい表現を理解している。			○	○	
	2	◎相手を誘ったり、提案したり、相手から求められた内容について適切に応答することができる。 ・目標表現を用いてペアで対話をする。	・目標表現を用いたロールプレイに取り組もうとしている。 ・目標表現を用いて伝えたいことを正しく伝えたり、求められた内容について適切に応答することができる。	○	○			表現力

5 本時の学習 (2/2)

(1) 題 材 Speaking Plus 1 コンサートに行こう

(2) 学習のねらい

- ・相手を誘ったり、提案したり、相手から求められた内容について適切に応答することができる。

(3) 評 価

①本時の評価規準

- ・目標表現を用いたロールプレイに取り組もうとしている。

[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

- ・目標表現を用いて伝えたいことを正しく伝えたり、求められた内容について適切に応答することができる。

[表現の能力]

②本時の授業のポイント

本単元が求める活用力が身についた姿とは、言語の使用場面で適切な表現を用いて英語による意思の伝達やコミュニケーションができた状態である。実際の言語の使用場面では、目標表現を用いたパターンプラクティスができるだけではコミュニケーションは成立しない。そこで本時のスキット発表では、誘いを受ける場合は時間や場所を決める、断る場合には理由や日程変更を提案するなど、プラスアルファを工夫させることで話を継続する力、コミュニケーションを円滑にすすめる力を身につけさせたい。

(4) 準 備 ワークシート PC

(5) 展 開

段階	配時	学 習 活 動	指導上の留意点 (・) 評価 (●) と 支援 (○)
導入	10分	1 Greeting and Warm up	・全員が参加できるような簡単な活動を行い、学習への雰囲気作りをする。 ・前時の基本文の確認をする。
		2 Review	

展 開	35 分	課題をつかむ場面 3 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日曜日、友達に映画に行こうと誘われました。誘いを受ける、または断るにはどうすればいいのだろうか。 スキットを作り、ペアで発表しよう。</p> </div> 4 誘いを受けるとき、断るときには何を伝えればいいのかをペアで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・誘いを受ける場合、断る場合には何を伝えればいいのかを考えさせる。 ・お互いの意見を次のスキット作りに役立てるように促す。
		課題解決の場面 5 ペアで対話する。 【Step1 スキット作り】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Ex. A: I'm free on Sunday. Would you like to go to see a movie? B: I'd love to, but I can't. I have to study for my English test. A: Oh, that's too bad. B: Maybe some other time.</p> </div> 【Step2 対話練習】 交流する場面 6 発表する。 【Step3 発表と相互評価】 <ul style="list-style-type: none"> ①発表Ⅰ（小グループ発表） <ul style="list-style-type: none"> ・発表 ・発表練習 ②発表Ⅱ（全体発表） <ul style="list-style-type: none"> ・発表 ・相互評価 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>*発表態度はどうだったか *声の大きさ・速さは適切だったか *対話の流れはスムーズだったか</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Yes: I'd love to. Where shall we meet? 行きたい気持ちを伝え、会う場所や時間などを決める。 No: I'd love to, but I have other plans. 行きたいけど行けない理由を伝える。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標表現がうまく使えない場合は、学習した表現をもう一度確認し、一部を変えて表現させる。 ・誘いに対して Yes/No の返事だけで終わっているペアについては、約束の時間や場所を決める、理由を伝えるなど、場面に応じた展開を考えるようにアドバイスする。 ・時間内にできるだけ多く練習するように練習回数の目標を設定する。 ●目標表現を用いたロールプレイに取り組もうとしている。（発表） ○活動に取り組もうとしていない場合は、視点を与えたうえで他のペアの取り組みを参考にさせたり、適切な声かけをする。 途中で対話が止まる場合には、つなぎ言葉やあいづちを工夫しながら話を続けるようにアドバイスする。 ・発表で言えなかった部分を確認して、もう一度発表練習をさせる。 ・評価の観点を確認する。 ●目標表現を用いて伝えたいことを正しく伝えたり、求められた内容について適切に応答することができる。（発表） ○誘うこと・提案することができていない場合は、目標表現を提示しリピートさせる。また求められたことに適切に応答ができていない場合は、話し手の質問の内容を確認し、それに対する適切な表現を提示し、口頭練習をする。 ・工夫した会話をしているペアは認め、他の生徒に紹介する。 ・円滑なコミュニケーションとなるために有効な手段や表現を確認して口頭練習をする。
ま と め	5 分	7 スキットについて自己評価を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いてもう一度自分のスキットの内容、流れや表現方法について自己評価させる。

